

# 令和6年度 校内研修計画（案）

## I 研究主題

主体的に問題を解決しようと学びに向かう児童の育成  
～総合的な学習の時間を要とした異学年交流をとおして～

## II 主題設定の理由

これからの社会は少子高齢化、情報化、グローバル化、人工知能の発達などの社会的変化が加速度的となり、ますます先を予測することが困難となることが予想される。急速に変化する現在の社会状況を踏まえ学習指導要領では、「子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」や「様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと」、「複雑な状況変化の中で、目的を再構築すること」、「児童一人一人に自分のよさや可能性を認識できる力を育むこと」が求められている。

本校では、令和4年度から5年度の2年間、友達と協働して問題を解決するための新たな手立てとして『思考ツール』の活用を試み、理論研修や授業実践を行った。その結果、実施した児童アンケートからは、自分の考えを表現することに意欲的な回答があり、思考ツールが効果的であったことが分かった。しかし、高学年になるにつれて自己表現に消極的になり、友達との交流に自信がない児童が多くなっていることも分かった。また校内の学校評価等から、本校児童は「自己肯定感が低い」ことが見えてきた。

そこで今年度から、小規模校ならではのまとまりの良さや行動力を生かし、総合的な学習の時間を中心とした異学年交流の時間を計画的に設定し、児童の主体性を引き出し、問題を解決しようと学びに向かわせる授業改善を図っていく。授業改善を図る中で期待できる学びの姿として、①教科横断的な学習を進めていくことで、児童の主体的な学びを促し、学習の中で得た知識や技能を多様な場面で活用することができる ②学習したことや体験したことを異学年との交流の場でアウトプットする場面を設定することで、伝え合う機会を増やすことができる ③相手意識を持った対話的な活動を進めていくことで、自己有用感・自己肯定感を高めることができ、学校全体の支持的風土を醸成することができる ④主に総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の人々と繋がることで社会に開かれた教育課程の実現を目指すことができる ⑤保幼小連携・小中連携をとおして、保育・幼稚園教育から小学校へ、小学校から中学校への円滑な接続を目指すと共に、地域をあげての教育を推進することができる。と考える。

このことから、総合的な学習の時間を要とした異学年で交流していく場面を多く設定することで、問題を解決しようと学びに向かう児童の育成、また、これからの時代を生き抜いていくために必要な課題解決能力、自己の生き方について考えていける能力を育成することができる。と考える。

そこで本年度は、主題を「主体的に問題を解決しようと学びに向かう児童の育成」とし、サブテーマに「総合的な学習の時間を要とした異学年交流をとおして」と設定した。

## III 研究の仮説

総合的な学習を要とした異学年交流の場を計画的に設定し実践していくことで、主体的に問題を解決しようと学びに向かう児童を育成することができるであろう。

## IV 本研究でめざす児童像

- 相手意識を持って、いろいろな学年と交流できる子
- 自分の考えをわかりやすく伝え、友達の考えを聞き合える子
- 様々な考えから、学びを広げたり深めたりできる子
- 主体的に学習に向かう子

## V 研究の方針

- (1) 全職員の共通理解のもとに研究を進める。
- (2) 毎週水曜日の放課後を、隣学年を中心とした授業づくりや異学年交流のための話し合いの場とする。
- (3) 計画に応じて講師を招聘し、「総合的な学習の時間」「異学年交流」の活用に対する研修を深める。
- (4) 授業研修として、各学年・隣学年・交流学年による代表授業を行う。（検証授業もありか）
- (5) 授業は隣学年、交流学年（全職員）で参観し、その他の学年で成果・課題を活かすことができるようにする。
- (6) 研究集録には、実践研究を掲載する。

## VI 研究の内容（具体的な取り組み）

### 1 研究主題に関すること

- (1) 「総合的な学習の時間」「異学年交流」についての理論研修
- (2) 1年を通じた交流計画、カリマネとの繋がりについて
- (3) 教科横断的な学習の中で伝え合う力を高めるためには
- (4) アンケートでの児童の実態把握と分析

### 2 研修に関すること

- (1) ICTを使ったアウトプットの仕方について
- (2) 実技教科に関する研修
- (3) 久高島散策（知念との歴史上のつながりについて）
- (4) 生徒指導提要について

### 3 研究のまとめ

- (1) 研究集録の作成（データ保存）

## VII 年間計画（未定）

月 日	曜日		内 容
4月3日	水	学力向上連携委員会	○本年度の研究テーマや実践事項の共通確認 ○授業の進め方の共通確認
4月12日	金	校内研修（理論研）	○講師を招聘しての講和（予定）
月 日	金		
7月上旬			○児童アンケートの実施
7月19日	金	学力向上連携委員会	○児童アンケートの結果、夏期校内研修について
7月22日	火	校内夏季研修①（日中）	○ICT研修（予定）
7月23日	火	校内夏季研修②（日中）	○久高島散策（予定）
7月24日	水	校内夏季研修③（午前）	○生徒指導提要について（予定）
11月頃			
12月中			○児童アンケートの実施（2回目）
1月		学力向上連携委員会	
2月 日		教育計画検討会③	○第2回 児童アンケートの結果について ○研究集録の作成（データ保存）について ○次年度の校内研修についての職員アンケート
3月 日		学力向上連携委員会	○次年度の校内研修についての検討 ○研究集録作成
			○次年度の校内研修について

## 4 総合的な学習の時間

### (1) 全体計画

<p>&lt;児童の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素直でやさしく思いやりがあり、ひとなつっこい児童が多い</li> <li>・基本的な生活習慣の定着が不十分である</li> <li>・自己肯定感が低い</li> <li>・規範意識が低い</li> <li>・学年問わず仲が良い</li> </ul>	<p>&lt;学校教育目標&gt;</p> <p><b>「夢や希望を持ち、心豊かにたくましく生きる、国際性に富む児童の育成」</b></p> <p>&lt;教育目標の具体化&gt;</p> <p>自ら学び、考え、発表する子(知育)</p> <p>やさしく思いやりがあり、心豊かな子(徳育)</p> <p>健康で明るく、たくましい子(体育)</p>	<p>&lt;教師の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを考えて行動する</li> <li>・やるべきことに粘り強く取り組む</li> <li>・将来の夢に向かって、主体的に学習に取り組む</li> </ul>
<p>&lt;地域の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知念半島に位置し、豊かな自然に囲まれている。</li> <li>・海野ハーリーやヌーバレー、知念綱引きなど、昔から受け継がれている伝統行事がある。</li> <li>・斎場御嶽や知念城跡などの歴史的文化遺産が数多く残っている。</li> <li>・学校教育に協力的な方が多く、学習の中で講師として携わる機会が多い。</li> </ul>	<p>本校の総合的な学習の時間の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を見つけ、学び方を身につけながら楽しく追求し、解決できる子を育てる。</li> <li>○主体的に学びに向かう児童を育てる。</li> <li>○自分の考えや意見を豊かに表現できる子を育てる。</li> </ul>	

### 本校のテーマ

**「私たちの南城市を知ろう・学ぼう・未来を描こう」**



めざす子ども像	育てたい資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・故郷を見つめ、郷土から学ぶ子</li> <li>・物事を多面的・多角的に捉え、粘り強く生き生きと学習する子</li> <li>・学習したことを生活の中に生かすことのできる子</li> <li>・故郷を誇りに持ち、広い視野で活躍できる子</li> <li>・主体的に学習に関わり学びに向かう子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決に必要な知識及び技能(知・技)</li> <li>・探究のプロセスの実行(思・判・表)</li> <li>・探究的な学習への取り組みと社会に参画する態度(主体的)</li> <li>・課題へ粘り強く取り組み、問題解決に向けて協働的に学ぶ態度</li> <li>・地域を愛する心</li> <li>・プログラミング的思考</li> </ul>

(2) 各学年の目標・取組

	3年	4年	5年	6年
テーマ	・生き物のひみつを見つけよう ・優しい心で	・みんな大好き!南城市 ・統計グラフに挑戦しよう	・ぼく・私の夢プラン	・平和ガイドになろう ・南城市の未来を描こう
時数	70時間 探究学習60 基本操作6 プログラミング 4	70時間 探究学習60 基本操作6 プログラミング 4	70時間 探究学習60 基本操作6 プログラミング 4	70時間 探究学習60 基本操作6 プログラミング 4
目標	福祉体験活動を通して、福祉について理解し、共生社会の実現に向けて自分たちにできることを考え自らの生活や行動に生かすことができるようにする。また、	地域のよさを見つける活動を通して、地域の特色や人々の思いを理解し、地域の一員としてこれからの南城市について考え、地域に誇りを持った行動ができるようにする。	お仕事調査取り組みを通して、働くことについて自己の生き方と関連させながら考えることができるようにする	尚巴志の学習や戦争追体験・資料館見学など体験活動や探究活動を通して、歴史や文化、平和について理解し、沖縄の歴史や文化について深く考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。
内容	・福祉について体験学習や探究活動を行うことにより、共生について自己の生き方と関連させながら考える	・南城市のよさに触れたり、史跡などを調べたりすることで、南城市のよさを再発見し、地域の一員として自分にできることを考える	仕事調査をし、多くの職業について調べたり、実際に職場体験をしたりすることで、地域社会を支える職業や機関、地域で働く人の存在と働くことの意味を考える。また、将来の夢について考える	・沖縄や知念の歴史を調べたり、追体験することにより、平和や生命の尊さを実感し、自己の生き方と関連させながら考える ・伝統文化であるハーリーについて調べ、体験する

(3) 総合的な学習の時間 評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度 (学びに向かう力)
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	実社会や実生活の中から積極的に問いを見だし、主体的・協働的に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に次の課題に取り組もうとしている。
評価 規準 につ いて	① 概念的な知識の獲得 ② 日常の様々な場面や状況で活用可能な技能の習得 ③ 探究的な学習のよさの理解	① 課題の設定 ② 情報の収集 ③ 整理・分析 ④ まとめ・表現	① 自己理解・他者理解 ② 主体性・協働性 ③ 将来展望 ④ 社会に参画する態度
文末 表現	「～について理解している」 「～を身に付けている」	「～している」	「～しようとしている」